

東京新聞より

時代を読む

渡辺 利夫



今年も何人かの友人が鬼籍に入った。今また知人の縁者から喪中の葉書が毎日のように届く。年を越えれば、私も七十歳。いつ何があっても、

おかしくない年齢である。友人が集まれば「花を咲かせる」のは、がんについての話題である。がんには取り憑かれたくないという思いは

今年も何人かの友人が鬼籍に入った。今また知人の縁者から喪中の葉書が毎日のように届く。年を越えれば、私も七十歳。いつ何があっても、

検査の苦痛はもろろんだが、結果が出るまでは半病人というより強迫神経症者であった。こんなことをつづけて

トレスから自分を解放するには検査をみずから拒否する以外に方法はない。早期発見・早期治療の情報飛び交う中で検査を拒否するのは容易ではなからうが、私の経験では

質に晒される期間が長期化する。老老化現象を病気と思ひ違えてこれと闘うほど愚かなこともあるまい。老化を食い止める医療が存在するはずはないからである。

死生観の時代

一、二回の検診を欠かしていないよつだ。

人のごとくであった。ヘビースモーカーの私は肺がんが気になり、CTスキャンを受け、変異部があると告げられ

いれば、加齢とともにますます頻度が高まる検診により本物の強迫神経症になりかねない。病のことなど心配しだしたら切りというものがない。

てかかる必要があるのではな

ミというサイズの時であり、それを過ぎるとがん細胞の転移能力は急速に衰えることを証す有力な臨床実験の結果がある。運命の分かれ道はがん細胞の生成の直後であり、検診によって発見可能な一、二

この大集団が老齢化するの

私はいえ、還暦を迎えたあたりで、血液検査を含めて、検診といわれるものすべてをやめてしまった。四十、五十代の頃には頻繁に検

ファイバースコープによる肺の細胞診を受けるはめになっ

この心理的拘束にはまり込んだ老後のことを思いぞつと臍を固めて検診の一切をやめることにした。検診のス

がんとは、食事や大気や煙草などを通じて体中に取り込まれるある種の物質が、精細に組織された遺伝子の配列構造を崩して変異細胞の異常増殖を引き起こす病である。

団塊の世代が高齢化に至るのは間もない。現在の検査や医療システムをそのままに、

無惨な神経症者の大量生産である。団塊の世代の老齢化は必須だが、私どもの方もまた

た。五十代の頃には頻繁に検

たことある。幸いにも異常なしといわれ安堵の息をついた。

増殖を引き起こす病である。

団塊の世代が高齢化に至るの

団塊の世代が高齢化に至るの

団塊の世代が高齢化に至るの

(拓殖大学学長)